

仙人通信 80 鬼ヶ岳 (1738m)

鬼ヶ岳は西湖の北側・御坂山塊のほぼ中央に位置し、山頂に角状の岩がある事から命名されたとある。西湖の湖畔にある漁眠荘裏の有料駐車場に車を置いて、東入川から雪頭ヶ岳→鬼ヶ岳→鍵掛峠を廻るルートとした。駐車場からは雪頭ヶ岳山頂に頭巾状の雲が掛かっているものの、積雪はないと判断して、軽アイゼンを携えて川沿いの林道を進んだ。

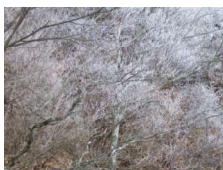
5分程で大きな堰堤となり、林道は左を巻いて 15 分程で真新しい堰堤の下の方に出る。この堰堤の右側の沢を渡り、杉林の中に作られたコンクリート丸太の階段で堰堤を乗越して涸れた沢の対岸に渡り、更に右に戻り杉林の中の登山道となる。この沢では以外と丸みのある斑の入った閃緑ひん岩が主体であり、小石を抱き込んだ凝灰岩も見られる。

豪雨の折りに度々、鬼が鳴くような轟音と共に土砂の濁流が根場地区の住居を襲ったのが堰堤の高さから伺え、山の名前の由来でないかと考えさせられた。鬼ヶ岳は北に十二ヶ岳火山礫凝灰岩、東西に高萩玄武岩に囲まれた閃緑ひん岩から出来ているとある。V字状の薄暗い杉木立を 30 分程進むと、張出した尾根の壁に当たり、左側を巻くと赤松の林となり、今度は檜の林を進むことに成る。微かに瀬音が聞ける程の静けさの林道を 1 時間程登ると、背丈の低い檜林のなり、日の光が感じられるようになる。やがて唐松の林となり、沢筋から左に反れて尾根に向かう。僅かに雲を着けた富士山が梢越しに望める。登山道脇は猪が餌を求めて掘り起こした跡が点在する。尾根に出ると前方に王岳と鍵掛が望める。唐松の中を 40 分位進んだ時点からブナの巨木・リョウブ・黒モジ等の斜面となり、雪が足元を覆う。アイゼンを着けて、透明となった雪解けのアイスバーンをゆっくりと登る。1500m 程の

高度だろうか先方の尾根越しに白く道路で象られた西湖が見える。西湖の上に水羊羹状の水蒸気の白い塊が湧いたと思ったら、轟音とともに霧の中に消え、近くの梢を揺すり、冷たい雪状のものが舞い散った。白い塊は富士山から吹き下ろした風が西湖の湖面の水蒸気を攪乱して日の光で反射したようだ。次の瞬間木々の梢は、霧氷で白く化粧をするも、自重と次の強風で吹き飛ばされ、そこに新たな霧氷が再生される。僅か数十秒の間に 3 mm いや 5 mm もあろうか米粒を潰した形状の結晶が風の吹いてきた方向に成長するのだ。登り初

めて 2 時間で草原状の雪頭ヶ岳山頂に着く。ここは高山植物の宝庫で有名である。アザミ・トリカブト・ウド・コウヤボウキの枯れた花や赤い茨の実にも容赦なく霧氷が取り付く様は正に神秘そのものだ。この先は痩せ尾根で気が抜けない。先方に鬼ヶ岳山頂近くに掛けられた梯子に元気を貰いながら 30 分で小さな山頂に辿り着いた。鬼の角はさほど大きくなり凝灰岩で出来ているのを確認した。霧が濃く周囲の視界が無いこと・突風とから、尾根道の危険を考え雪頭ヶ岳に戻ることとした。アイゼンの効き具合を確認しながら進んでいると頭の赤いケラがドラムを叩いて、勇気を鼓舞してくれているようで嬉しさが込み上げた。唐松林を下山していると、強い視線を感じて凝視すると 10m ほど先の小さな檜の近くに大きく真っ黒な日本カモシカの雌が居るではないか。「や〜会えましたね。大丈夫だよ・」なんて喋り掛けてしまった。なにか凄く徳をした 5 時間強の山旅ができた。(H21. 2. 9)

霧氷



鬼ヶ岳山頂



西湖からの富士山

